

- 太平洋戦争は、予想以上の成功のうちに進められた
 - ▽米太平洋艦隊 英東洋艦隊を撃破し
 - 香港 マニラ シンガポールの要衝を占領
 - 油田地帯も 落下傘部隊の奇襲攻撃で 確保した
 - ▽半年足らずで 連合軍捕虜25万人
 - 撃沈した軍艦105隻 大・中破91隻
 - ▽日本軍の損害 戦死約7千人
 - 艦船27隻 巡洋艦以上の大型艦はなかった
 - ▽日本国内は 連戦連勝に 沸き立ち
 - 戦争が終わってしまったような 安堵感の半年

参謀本部「機密戦争日誌」(昭和16年12月8日)

戦争第一日ヲ送ルニ方リ、作戦ノ急襲ト言ヒ
全国民戦意ノ昂揚ト言ヒ理想的戦争発起ノ成
功セルヲ確認シ戦争指導班トシテ感謝感激ノ
念尽キサルモノアリ 然レトモ戦争ノ終末ヲ
如何ニ求ムヘキヤ 是本戦争最大ノ難事 神人
一如ノ境地ニ於テ始メテ之カ完キヲ得ヘキ哉

- ▽日米間の 大きな国力の差を考えれば
 - 最高指導部は 初期作戦が順調にいった時
 - この戦争を どこで終わらせるのか
 - また どのように 終わらせるのか
 - それには 何を急がなければならないのか
 - 予想される米軍反攻に どう対処するのか
 - 真っ先に考え 手を打たなければ いけなかった

- 最高指導部までが勝利に舞い上がり、アメリカを甘く見るようになった

8日夕、真珠湾攻撃の戦果を聞いて

東条英機(訃)は、「予想以上だったね。いよいよルーズベルトも失脚だね」杉山元(讞)も「先頃岩清水八幡に参拝したが、その時今度の戦争には神風の助けを借りなくても済むように祈ったよ」赤松貞雄大佐(訃)は「全員戦果を祝しつつ上機嫌の一夜だった」

- ▽東久邇宮(讞)は 12月29日 東条に「シンガポールが陥落した時点で和平工作を」

東条 英機(とうじょう・ひでき)

明治17(1884)～昭和23(1948)東京生まれ。陸軍大将。関東軍参謀長を経て昭和13年陸軍次官。15年第2次近衛内閣陸相となり中国撤兵に反対。16年10月首相。陸相、内相を兼務し対米英開戦。憲兵政治、翼賛選挙により独裁体制を固め、戦局悪化で19年には参謀総長も兼務したが、サイパン陥落で7月総辞職。戦後、拳銃自殺を図り未遂。A級戦犯で絞首刑

ルーズベルト(Franklin Roosevelt)

1882～1945 昭和8年米国第32代大統領に就任。第2次大戦で指導力を発揮し異例の4選を果たしたが、終戦直前に急死

杉山 元(すぎやま・はじめ)

明治13(1880)～昭和20(1945)福岡県生まれ。陸軍大将・元帥。昭和12年第1次近衛内閣陸相。15年参謀総長。教育総監を経て19年小磯内閣陸相に再任。20年4月本土決戦に備えて第1総軍司令官。終戦翌月に拳銃自決した。重要会議の内容を記録した「杉山メモ」を遺す

赤松 貞雄(あかまつ・さだお)

明治33(1900)～昭和57(1982)秋田県生まれ。陸軍大佐。昭和13年東条次官秘書官。スイス駐在後に陸相秘書官。16年首相秘書官。著に「東条秘書官機密日誌」

東久邇 稔彦(ひさしくに・なるひこ)

明治20(1887)～平成2(1990) 京都生まれ。旧皇族。陸軍大将。大正9年フランスに留学し仏陸軍大学を卒業。第2、第4師団長を歴任し、昭和16年防衛総司令官。20年8月皇族内閣を組織、終戦処理に当たった。著に「一皇族の戦争日記」

▽東条は「この調子ならジャワ、スマトラは勿論、オーストラリアまでも容易に占領出来ると思う。この時機に和平など考うべきではない」

●緒戦の勝利を背景に「お題目作り」、体制強化

「高松宮日記」(昭和17年2月26日)

総力戦研究所ノ研究会、首相官邸ニ聞キニ行ク。今後二十年ノ計画トカデ、マルデオ題目ミタイデアッタ。午後モアルガモウ沢山ト帰ル。

…… 東郷茂徳(外相)も当時を振り返って ……

この頃は日本一般に戦勝に酔うた調子で、一方では百戦百勝を予想してもはや天下憂うべきものなきが如き楽観に耽っている一方、米と相対峙するには長期の覚悟が必要であり、二、三十年さきの戦力涵養に備える必要ありとて、企業整備、学制改革の如きその影響が永きに亘る施設に着手するとともに、十年の後に役立つが如き工場の設備に貴重の材料を消費していた。…現在は戦に勝つための施設に限定すべきである。然らざれば敗戦となるべきことは明瞭であると云って反対したが、総理はもちろん主管大臣は耳を傾けなかった。

(「時代の一面 大戦外交の手記」から)

▽真っ先に実施したのが「翼賛選挙」(第21回総選挙)

総選挙は 支那事変(昭和12年)以来

「戦争中」という理由で 先送りされていた

▽戦争完遂のために 国民結集に 絶好の機会

昭和17年4月4日公示 30日投票

政府の方針に 拍手喝采を贈るだけの

ナチスのような 議会作りが 目的だった

▽2年9ヵ月の任期中 大東亜省(17年11月)

運輸通信 軍需 農商務省(18年11月)と 4省を新設

▽何でも 法的権限を強化して

上から命令すれば「事足れり」とする傾向

▽もっと 戦局の将来を洞察して

急がなければならないことが たくさんあった

●まず第一に、飛行機の増産だった

高松宮 宣仁親王(たかまつのみや・のぶひと)

明治38(1905)～昭和62(1987)大正天皇の第3皇子。海軍大佐。戦争中、軍令部参謀、砲術学校教頭。戦後は国際文化振興会総裁など。海兵在学中、大正10年から書き続けられた「高松宮日記」(20冊)

「高松宮日記」について

日記の整理、編纂に当たった阿川弘之さん(作家)は「昭和十七年度分、どっさり書かれてある中身は、殆どが第一線部隊、各艦船からの機密電報、各司令部から発する命令電報の写しであって、宮はこの時期以後、事実の収集記録だけに専念する。余計なことは言はない、書かない、一喜一憂もしない。日常茶飯の記述も最小限にとどめると、思ひ決めてしまはれたかの観がある。…御自身の感想、官僚や陸海軍高級軍人のやってあることへの批判、所見といったものはめったに出て来ないが、読んでみて稀にその種の書き込みにぶつかると — 多分私だけではあるまい、ハツとする」

(「高松宮と海軍」から)

東郷 茂徳(とうごう・しげのり)

明治15(1882)～昭和25(1950)鹿児島県生まれ。駐独・駐ソ大使を経て昭和16年東条内閣外相兼拓務相となり日米交渉に当たる。翌年、大東亜省設置に反対し辞任。20年鈴木内閣外相兼大東亜相。A級戦犯で禁固20年。拘置中に病死。著に「時代の一面 大戦外交の手記」

「戦艦プリンス・オブ・ウェールズ」

昭和16年1月就役。主砲14吋砲10門。長門の16吋砲には劣るが30ノット(長門25ノット)の高速。「ポムポム砲」と呼ばれる毎分800発発射の8連装の対空砲火4門を備え、イギリスが「不沈戦艦」

▽真珠湾攻撃の成功は 世界海軍の常識を破った
空母中心の 機動部隊による 航空攻撃

▽マレー沖海戦(12月10日)では

英戦艦プリンス・オブ・ウェールズ(38,000ト)が
一式陸攻 九六式陸攻 85機の雷爆撃で
戦艦レパルス(32,000ト)と共に 撃沈された

▽山本五十六(遊撃艦隊)が「空の時代」

新しい時代の扉を 開いたのに

軍令部は 旧来の「大艦巨砲」「艦隊決戦主義」に

▽開戦直後(12月16日) 巨大戦艦大和(65,000ト)竣工
2番艦武蔵 3番艦信濃(その後空母改)の建造に

戦艦大和

砲弾など満載時排水量72,808ト。全長263m。
従来の戦艦の2倍近い巨艦で、乗員約2,500人。
最高速力27ノット。18吋砲9門を装備し、1.4ト
の砲弾の最大射程距離41km。日本の造艦技術
の粋を集めた世界最大最強の戦艦だったが、
すでに海戦は空母主力の時代。20年4月7日、そ
の威力を発揮しないまま、沖縄に出撃の途中、
九州薩摩半島沖で米軍機386機に撃沈された。

▽福留繁少将(駆逐艦隊)は「多年戦艦中心の艦隊訓
練に没頭してきた私の頭は、機動部隊が真珠湾
攻撃に成功した後もなお、機動部隊は補助作戦
に任ずべきもので、決戦主力は依然として大艦
巨砲を中心とすべきものと考えていた」

●アメリカは、素早く「航空主体」に切り替えた

▽空母建造 飛行機増産 パイロット養成へ

..... 長谷川清(海軍大将)の話

駐米武官補佐官をしていた第1次大戦の時、
デトロイトのフォード自動車工場を見て、「本
当にびっくりした」流れ作業で1日300台くら
い自動車を生産していたが、ドイツUボート
(潜水艦)の攻撃で船舶被害が急増すると、その流
れ作業を応用して駆潜艇(500ト)建造に。大き
な工場の中にレールを4本引いて、半分ほど出
来るとレールの上を滑らせて残りの工程を仕
上げる。駆潜艇を同時に12隻製造していた。

と豪語していた新鋭戦艦だった。

日本のマレー作戦を牽制するため、
12月2日、シンガポールのセレター軍
港に配備された。チャーチル(首相)は
沈没を聞き「戦争の全期間を通じて、
これほど直接のショックを受けたこ
とはなかった」(第二次大戦回顧録)

チャーチル(Winston Churchill)

1874~1965 昭和15年英首相となり、強
力な指導力で第2次大戦勝利に貢献。26
年再度首相。28年「第二次大戦回顧録」
などの著作でノーベル文学賞受賞

一式陸上攻撃機

昭和16年4月制式採用。乗員7人。最
大速度444km/h。航続距離6,111km。

九六式陸上攻撃機

昭和11年6月制式採用。乗員7人。最
大速度373km/h。航続距離4,379km。

山本 五十六(やまもと・いそく)

明治17(1884)~昭和18(1943)新潟県生
まれ。海軍大将。大正8年米国駐在、ハー
バード大学留学。14年駐米武官。霞ヶ浦
航空隊副長、空母赤城艦長、航空本部長
を歴任。昭和11年海軍次官。14年連合艦
隊長官となり、開戦劈頭、真珠湾攻撃を
立案、実行した。前線海軍基地を視察中
にソロモン諸島上空で米軍機に撃墜さ
れ、戦死した。死後元帥。国葬

福留 繁(ふくどめ・しげる)

明治31(1898)~昭和46(1971)鳥取県生
まれ。海軍中将。昭和14年連合艦隊参謀
長。16年軍令部作戦部長。18年再び連合
艦隊参謀長となり19年搭乗機がセブ島
で不時着、ゲリラの捕虜となったが、陸
軍部隊に救出される。第2航空艦隊長官

▽自動車工業の流れ作業で 今度は 飛行機増産

●日本は、飛行機で遅れをとった

▽開戦時 海軍の作戦機は2,265機

1年後 昭和17年11月で 2,605機

激しい消耗戦で 340機しか 増えていなかった

▽陸軍も 保有機数1,600機が みるみる減っていく

▽「この戦争は、空で決まる」日本が気が付くのは

18年初頭 ガダルカナルを失ってからだった

▽東条は 6月 ようやく「総力を結集して

航空戦力の緊急増強を行う」方針を 明示した

▽「航空第一主義」の方針に 到達するのに

開戦以来 1年7ヵ月も かかってしまった

▽戦争中 日本が生産した飛行機は 約6万5千機

アメリカの29万機には 遠く 及ばなかった

●第二の問題は、海上護衛思想の欠如だった

「今後採ルヘキ戦争指導ノ大綱」

昭和17年3月7日 大本営政府連絡会議決定

(一)引続き既得ノ戦果ヲ拡充シテ長期不敗ノ
政戦態勢ヲ整ヘツツ機ヲ見テ積極的方策ヲ講
ス (二)占領地域及主要交通線ヲ確保シテ国
防重要資源ノ開発利用ヲ促進シ自給自足ノ態
勢確立及国家戦力ノ増強ニ努ム

▽「主要交通線確保」は 単なる作文に 過ぎなかった
台湾海峡から南の 長大なシーレーンで

輸送船護衛に当たる海防艦は たったの4隻

▽昭和17年に入ると 米潜水艦活動は 活発になった
種村佐孝中佐(海軍少将)は 嘆いている

……「大本営機密日誌」(17年6月3日) ……………

「撃沈船舶は激増して開戦前の予想を凌駕せ
んとし、誠に憂慮すべきものがある。地味な海
上護衛問題は、軍令部が依然第二義的に考え
てて力瘤を入れない状況である」

▽慌てて 海防艦30隻の建造に かった

海上護衛総司令部設置も 18年11月15日

▽石油を確保しても タンカーがなければ運べない
113隻(54万ト)あったが 小さなものばかり

長谷川 清(はせがわ・きよし)

明治16(1883)～昭和45(1970)福井県生
まれ。海軍大将。大正8年駐米補佐官。海
軍次官、支那方面艦隊・横須賀鎮守府長
官を歴任し、昭和15年台湾総督

…… 東条は飛行機増産要求に ……………

参謀本部が昭和17年7月、「飛行機増
産要求計画」を提出すると、東条(脚)
は「飛行機の生産だけでは、戦争は出
来ない。少ない飛行機で勝つ工夫、転
換が必要だ。遠距離爆撃機、戦闘機だ
けとし、貧乏人らしく考えよ。輸送機
などあるのは贅沢というものだ」

原料入手難、生産のネックで軍需動
員計画が縮小されると、陸軍の「地上
戦絶対」の体質が、「航空優先」を押し
退ける結果になった。

石井秋穂中佐(陸軍少将)の話

戦後「我々はアメリカを過小評価し
たのではなく、あの自由主義の国、あ
のデモクラシーの国で、あの膨大な
国力をあの速さに、あの規模に、戦
力化し得るとは考えなかった。我々
は自由主義とデモクラシーを甘く見
たのである」と回想している。

「高松宮日記」(16年12月20日)

米太平洋艦隊長官に、潜水艦勤務の
長かったニミツ(脚)の抜擢を知っ
て、「米国ハ太平洋艦隊長官ニ潜水艦
ヤ(脚)ヲモッテキタ。潜水艦戦ニ当分
ハ出ルノデアラウ…之ニ対シテ十分
ナル対潜計画ノ立案ガ必要デアル」

ニミツ(Chester Nimitz)

1885～1966 米海軍元帥。昭和16年12月
太平洋艦隊長官になり、陸軍のマッカ
ーサーと共に対日作戦全般を指揮した

▽17年5月20日 貨物船をタンカーに改造など
「油槽船増強応急措置」を 決定したが
全てが 後手後手になった

●第三の問題は、陸軍の主戦場は対ソ作戦で、南方作戦は局地戦の位置付けだった

▽開戦時 陸軍の兵力配置は

51個師団(200万)のうち 南方は11個師団(40万)
満州(13個師団) 中国(21個師団) 内地・朝鮮(6個師団)

▽南方作戦が 順調にいったのは

連合国内国から 遠く離れた植民地であり
守っていたのが 装備の劣る 植民地軍だった

▽陸軍は 第一段作戦が 終了したら 南方から
一部兵力を引き揚げ 北方・中国戦線に転用

▽ドイツ軍は 猛吹雪の中 敗走を始めていた
ヒットラーは 日米開戦の日に 後退命令

▽本当は 占領後の南方要域を どう維持し
長期不敗態勢を どのように 築くのか
この具体的計画の作成が 必要だった

●第四の問題が、陸海軍の対立

▽占領地の軍政を どっちがやるのか 分担争い

……「大本営機密日誌」(17年1月3日) ……
「比島のマニラは今明日中にも陥落するとい
うので、その場合比島高等弁務官邸を、陸軍が
使うか、海軍が使うか — 俺の方によこせ、お
前の方にはやらぬ — で陸海軍間で三日間も
いざこざしている状態である」

●日本中が勝利に浮かれていた昭和17年4月18日、日本は「真珠湾の返礼」を受ける

▽米空母から発進した 爆撃機により

東京 川崎 横須賀 名古屋 四日市 神戸が
初めて 空襲されたのだ

▽全国で 死者45 負傷者153 家屋全焼・全壊181戸
被害は軽かったが 虚をつかれた政府

ことに 陸海軍の衝撃は 大きかった

▽白昼 全く無抵抗で 帝都上空に侵入を許し
1機も撃墜出来ずに 逃してしまった

種村 佐孝(たねむら・さこう)

明治37(1904)～昭和41(1966)三重県生
まれ。陸軍大佐。昭和14年参謀本部参謀
となり、15年戦争指導班(第20班)勤務。20
年8月第20方面軍参謀。シベリアに抑留
され25年帰国。著に「大本営機密日誌」

「高松宮日記」(16年12月16日)

駐蘇陸軍武官来電中ニ「ソ聯ノ実力
ニ鑑ミ、当分ソ聯ガ帝国ニ対シ積極
的行動ニ出ヅルヲ得ザルハ明カナル
ヲ以テ、帝国ハ季節ノ顧慮ナク南方
作戦ニ全カヲ尽シ得ベシト云ヘド、
目下南方一片付キ次第、世界戦線ノ
薄弱部ヲ突破シテ世界戦打開ノ緒ヲ
得ルコト必要ナリト信ズ。明春以後
ノ独軍作戦ニ何時ニテモ応ジ得ルノ
準備整フルハ要スルハ、申ス迄モナ
キ所云々」、斯カル理由考ル陸軍サン
多カルベシ。

ヒットラー(Adolf Hitler)

1889～1945 昭和8年ドイツ首相。総統
として一党独裁体制を確立。14年第2次
大戦を起こす。ベルリン陥落直前自殺

「大本営発表」

当初、陸軍部発表は「われは官軍、わ
が敵は…」の「抜刀隊」のメロディー、
海軍部発表は「軍艦行進曲」で行われ
たが、「どうも功名争いのように面白
くない」と、昭和17年1月12日から「大
本営発表」に一本化された。

石油輸送問題でも対立した

パレンバン油田(マトラ)は、陸軍落下
傘部隊が確保したので陸軍が運営に
当たっていた。予期以上に石油が採
れるのに、運ぶべきタンカーは8割ま
でが海軍に徴用されている。一方、海
軍落下傘部隊の確保したボルネオ油

●「空母に陸軍の爆撃機を積んで日本を空襲する」

▽この破天荒な計画は 17年1月16日

ルーズベルトが洩らした「出来るだけ早い機会に日本本土を爆撃したい」の一言から 始まった

▽海軍で 検討したが

空母艦載機では ほとんど 不可能だった

日本近海に近付けば すぐ 日本艦隊に発見され
当時6隻しかない 空母の犠牲を 増やすだけ

▽陸軍に 協力を求めたところ

アーノルド大将(航空司令官)が 提案したのは

「航続距離の長い、陸軍の双発中型爆撃機ノース
アメリカンB25を空母に搭載して発艦させる。
空母は直ちに日本機の攻撃圏内から退避、B25
は日本を空襲した後、そのまま中国大陸まで飛
んで、日本軍の非占領地区に着陸させる」

●爆撃隊長には、ジェームス・ドゥリットル中佐(45歳)

▽隊員は 米軍各基地のB25搭乗員から 志願で

「危険で、重要で、そして面白いもの」

▽ドゥリットルは 3月3日から フロリダの基地で

空母から発艦のための 本格的訓練を始めた

▽飛行場を 空母ホーネットの飛行甲板に合わせ

長さ230呎 幅24.4呎に区切り 発進する訓練

▽3月20日には 20呎の向かい風があれば

106呎ほどの距離で 離陸出来るまでに

●ホーネットは4月1日、16機のB25、乗員80人を乗せて
サンフランシスコを出航

▽13日 ハルゼー(中将)率いる 機動部隊と合流

▽計画では 日本から800海里で B25を発進

東京を夜間爆撃し 明るいうちに 中国大陸へ

●18日午前6時半、監視艇第23日東丸(カマノ)が発見

▽6時50分 「敵航空母艦三隻見ユ、

ワガ地点犬吠埼ノ東六百カイリ(1,110海里)」

▽7時2分 「ワレ敵ノ攻撃ヲ受ク、

全カヲ拵ゲテ交戦中」を最後に 消息を断った

▽ハルゼーは 決断を迫られた

B25発進予定地点には まだ300海里

任務遂行か 爆撃を断念し 引き揚げるか

田は、微々たる量だった。

「大本营機密日誌」(17年5月13日)は「海軍からはパレンバン製油所の運営を合同でやろうという意見を持出したが、これには陸軍が反対する。陸軍側は海軍からタンカーを吐き出させようとする、今度は海軍が反対する」

「スピード・ジミー」

ドゥリットルは、カリフォルニア州立大学を卒業すると、第1次大戦で陸軍航空隊に入隊、テスト・パイロットになった。大正末から昭和初期にかけて盛んに行われた飛行機のスピード・レースで優勝カップをさらい、陸軍最高のパイロットだった。

第2次大戦が勃発すると再び陸軍に復歸していたが、アーノルドは、その科学的知識の高さと豊かな企画力にも目をつけた。陸軍大尉で退役、シェル石油航空部長に就任すると、高オクタン価の航空燃料を開発して量産化に成功した実績があった。

海軍の哨戒態勢

日本の防空システムに、レーダーが配備されるのは昭和19年になってからだった。海軍は開戦と同時に、76隻のカツオ漁船(90隻艦、勸7ノット)を徴用し、東方洋上の哨戒に当たさせた。乗組員15人の半分は漁師、武器は機銃1挺、小銃2挺。「敵発見」の無電のキイを叩いた時は確実に死が約束されている「特攻レーダー」のようなもの。

軍令部の判断は

まさか、陸軍の爆撃機とは思ってもない。艦載機とすれば、空母の位置から見て敵機来襲は19日早朝と判断していた。頼みの機動部隊は、インド洋作戦を終えて台湾海峡を通過し帰

▽「勇猛ブル(bull 牝)」の決断は
予定を10時間早め 全機発進だった
▽急速 白昼爆撃に切り替えた 爆撃隊は
午前7時21分 ドウリットル機を先頭に発艦

●18日は土曜日、朝からよく晴れて、桜も満開

▽本土防空は 陸軍の担当
帝都を守るのは 旧式の 九七式戦闘機44機
▽東部軍司令部は 午前8時半 警戒警報を発令
九七式機が 東京上空警戒に 当たっていたが
燃料が足らなくなり 正午ごろから
柏 調布の基地に 引き返し始めていた
▽その直後 水戸付近の防空監視哨から
「敵大型機一機発見」 緊急連絡が入ったが
東部軍司令部は 味方機の見誤りではないかと
空襲警報発令を ためらった
▽第1弾の投下が 午後零時10分 空襲警報は14分後
▽B25は レーダーを警戒し

海面すれすれの超低空で 単機で侵入して来た
▽九七式機が 慌てて 迎撃に飛び上がったが
上昇を急いだため 低空のB25を発見出来ない
▽やっと 捕捉しても 最大速度460*₀では
B25(480*₀)に 簡単に 振り切られた
▽京浜地区には 110門の高射砲が 配置されていた
次々と「一機撃墜」の報告
実戦で 初めての対空射撃に 興奮して
派手に上がる弾幕を 命中と間違えた
▽東部軍司令部は 午後2時「九機撃墜」と発表
▽東条は 夕方 陸軍省に戻ったが

防空部隊の 戦果報告は あいまいだった
撃墜した敵機が 地上のどこにも 見つからない
▽東条は「すぐ東部軍の発表を取り消せ。こんな出鱈目な報道をやったのでは、今後の戦果の発表に内外の信を失う」と 厳命したが…

●米軍機搭乗員8人が、日本軍の捕虜になった

▽爆撃隊は 1機が ウラジオストックへ
13機が 中国軍飛行場に 強行着陸 落下傘降下
2機が 水田 海岸に不時着 2人水死 8人が捕虜
▽捕虜は 空路東京へ 東京憲兵隊で取り調べ

途についているところで、間に合わない。そこで敵空母接近を待ち、木更津海軍航空隊から一式陸攻30機で攻撃することになっていた。

陸軍九七式戦闘機

昭和12年制式採用。単発・低翼・固定脚。ノモンハン事件(昭和14年)では格闘性能を発揮してソ連機を相手に活躍したが、すでに旧式機になっていた。

東部軍司令部発表(午後2時)

「午後零時三〇分ゴロ敵機数方向ヨリ来襲セルモ我ガ空地両航空部隊ノ反撃ヲ受ケ、逐次退散中ナリ、現在マデニ判明セル敵機撃墜機数八九機ニシテ我ガ方ノ損害軽微ナル模様。皇室ハ御安泰ニ互ラセラル」

東条はB25と遭遇していた

内務大臣を兼務していた関係から、16日から2泊3日の予定で、栃木・茨城県の地方行政視察に出掛けていた。18日輸送機で宇都宮から水戸へ向かう途中、B25とすれ違い、それも操縦席が互いにのぞき込めるほどの至近距離で、東条は秘書官に「あれはアメリカ機だぞ」と、驚きの声を挙げた。

発表は取り消されなかった

取り消せば、陸軍が本土防空の空白を認めることになる。辻褃合わせに、25日から始まった靖国神社臨時大祭で、境内に「これが撃墜の証拠だ」と、B25の残骸を展示したが、実際は中国の日本軍占領地区に不時着したB25を運んできたものだった。

「恐怖の毎日だった」

爆撃手のデシェーザー伍長(29歳)は「手錠をはめられたまま、足の爪先が

●葛飾・水元国民学校では、機銃掃射で高等科1年13歳の少年が犠牲になった

▽新聞は 大見出しで「鬼畜の敵、校庭を掃射」
杉山(隼)は 見せしめに「捕虜全員を死刑に」

▽戦時捕虜の国際条約は ハーグ条約(1907年)
捕虜の待遇に関するジュネーブ条約(1949年)

▽ジュネーブ条約は 軍部の反対で
批准していなかったが 東郷(外相)は「尊重する」
昭和天皇も 心配されていた

▽参謀本部は 8人を 戦時捕虜としてではなく
「非軍事目標に対する銃爆撃は人道上許せぬ」
戦時重犯罪容疑者として 裁こうとした

▽敵機搭乗員の処罰規定がないので 法律を作った
「空襲軍律」「同実施規定」(7月28日付)

無差別爆撃や国際法に違反した場合「処罰ハ
死トス。但シ情状ニヨリ、無期モシク八十年以
上ノ監禁ヲ以テコレニ代エルコトヲ得」

問題なのは、軍律に遡及規定を付け加えたこと。
法律は制定された時から効力を発するが、
「ソノ効力ハ本軍律施行以前ノ行為ニモ適用」
と、8人の捕虜にも適用出来るようにした。

●東条は、参謀本部の強引なやり方に反対した

▽「八人は戦時捕虜として扱うべきだ。また彼らが捕虜となったのは第十三軍(上)指揮下である以上、裁判は同軍法務部で行うのが当然で、参謀本部が独自に裁判を行うのは行き過ぎではないか」

▽杉山は「空襲は作戦事項であり、参謀本部の管轄」と反論したが 東条の意向を入れ

8人は 上海に移され 第13軍の軍律会議に

▽その際 参謀総長名で 軍司令官に指令

「検察官の求刑は死刑であること、審判で有罪であれば死刑の執行は八月中旬に実施すること」

▽軍律会議は 8月28日 8人全員に 死刑を宣告した

▽東条は この判決にも 異義を唱えた

「確かに米軍機は非軍事目標を攻撃し、学童を殺したが、この罪を搭乗員全員に及ぼすのは如何なものか。実行行為者とそうでない者との間には量刑の差があつて当然だ」

辛うじて床につくくらいの姿勢で、壁の横木に8時間も吊された。板の上に寝かされ、顔をタオルで覆って、鼻と口から水を注がれたし、何の理由もなく竹の棒や銃剣の鞘で無闇やたらと殴られた」

デシェーザーは戦後23年、日本人にキリスト教を布教するため宣教師になって再び来日したが、「自分の捕虜生活を支えたのは宗教だった」と、気付いたからだという。

「機密戦争日誌」(5月6日)

捕虜取扱イニ関スル件、オ上ノ耳ニ入り、鄭重ナ取扱イセヨトノオ言葉、侍従武官長ヨリ次長宛伝達セラル。御仁慈ノ程、拝察シテ恐懼ニ堪エズ。

「機密戦争日誌」(5月21日)

米人捕虜問題、御心ヲ体シサラニ研究ノ上処理セントス。要ハ断乎処分スルニ在ルモ、コレガ合法性ヲイカニ取扱ワントスルカニ存ス…軍法会議ニ付スル腹案ナリ。

…… 東条には在米邦人への配慮も ……

東京裁判で田中隆吉少将(当譯飯綱)は「局長会議の席上、軍務局長が死刑に決まると報告すると、東条陸軍大臣は「それはいけない。殊に在米同胞がたくさん向こうで抑留されておるのに、非常に悪影響を及ぼす」というわけで、強く反対されたのであります」と証言している。

田中 隆吉(たなか・りゅうきち)

明治26(1893)～昭和47(1972)島根県生まれ。陸軍少将。昭和7年上海駐在中、日本人僧侶殺害の陰謀で上海事変を起こす。兵務局長を経て17年予備役。東京裁判で検事側証人として暴露的証言

▽東条は 10月3日 参内して

木戸幸一(内相)に 天皇への執り成しを依頼した

▽遅れて参内した 杉山は

木戸から 天皇の減刑の意向を 知らされた

▽結局 操縦士と射手 3人が死刑に

爆撃手のデシェーザーなど 5人が無期に減刑

▽死刑は「学童を殺した3人」とされたが

2人は 東京ではなく 名古屋を空襲していた

●10月15日、上海で3人の死刑が執行されると、「非道な

国日本」と、米国民の大きな憤激を呼ぶことに

▽ルイジアナ州収容所には 長渡丸の捕虜5人

市民が「日本の捕虜をやっつけろ」

収容所長は「絶対に市民に手出しは

させないから、兵舎の中に入っていなさい」

戦車 機銃をキャンプ内外に配置 守ってくれた

▽マレー沖海戦で 英戦艦2隻の沈没を確認すると

小沢治三郎中将(南艦隊司令官)は 攻撃隊に「その翼

を振ってイギリス海軍将兵の勇気を讃えよ」

壱岐春記大尉(戦艦航空隊に入り佐)も 12月18日

沈没地点に 慰霊の花束を 投げ入れた

▽オーストラリア海軍は 17年5月31日

シドニー港に 特殊潜航艇3隻で突入し

戦死した6人を「勇敢な行為」として 海軍葬

▽ドゥリットル爆撃隊も

「危険を顧みない勇氣ある行為」だったが

日本は 見せしめに 処刑という報復措置

これが 捕虜虐待に 一つの流れ

▽そして 帝都空襲のショックが

反対論を押し切って ミッドウェー作戦決行に

●攻守一挙に所を変え、大きなターニング・ポイントに

なったミッドウェー海戦(昭和17年6月5日)

▽普通に戦えば 負けるはずのない戦いだった

▽動員した兵力は アリュेशन作戦も含め

空母8隻 戦艦11隻 巡洋艦21隻 飛行機600機

アメリカは 空母3隻 戦艦はなく 巡洋艦8隻

▽パイロットの技量でも 日本軍の敵ではなく

飛行機も ゼロ戦(零式艦上戦闘機)に

対抗できるような 優秀な戦闘機は なかった

木戸 幸一(きど・こういち)

明治22(1889)～昭和52(1977)東京生まれ。維新の元勳木戸孝允の妹の孫。昭和5年内大臣秘書官長。文相、厚相を歴任、15年内大臣に就任。開戦前、後継首相に東条を推挙。戦争末期、反東条となり倒閣、終戦に尽力した。A級戦犯で終身禁固刑。30年出所。著に「木戸幸一日記」

監視艇長渡丸

カツオ漁船の監視艇長渡丸は、18日第23日東丸の通信をキャッチすると現場に急行、午後零時半頃、帰途についていたハルゼー機動部隊を発見し打電した。艦砲射撃と爆撃に1挺の機銃で応戦して1機を撃墜、空母のスクリュームがけて体当たりしようとして撃沈されたが、米軍は救助した5人を「君たちは勇敢だった」と丁重に扱い、ルイジアナ収容所に送った。

小沢 治三郎(おざわ・じさぶろう)

明治19(1886)～昭和41(1966)宮崎県生まれ。海軍中将。航空戦隊司令官を歴任し昭和16年南遣艦隊長官。第3艦隊長官を経て軍令部次長。20年海軍総隊長官

零式艦上戦闘機

昭和15年制式採用。単発・低翼。最高時速533*。航続距離2,200*。

全ては勝利に奢り油断から

機密は街中にさえ洩れていた。呉の理髪店で、海軍士官が主人から「今度はいよいよミッドウェーらしいですな」と耳打ちされ、飛び上がった。

大阪警備局の日誌にも「内地郵便物を検閲したところ、今次作戦を推知せしむるもの多数発見す」「上陸員が不用意に今次作戦を口外せる者多し」といった報告が記録されている。

- ニミッツは「ミッドウェーは情報の勝利であった」
▽致命的だったのは 海軍暗号が 盗まれていた

マーシャル(鐵艦)の言葉

奇襲を狙った日本は、逆に奇襲されて敗退した。我々は、限られた全兵力を敵の目標であるミッドウェーに集中して迎撃出来たが、さもないければ、アメリカはほぼ確実に三千マイルは後退せざるを得なかつただろう

- ▽米の兵力集中 奇襲を可能にしたのが 暗号解読
- ▽昭和17年1月20日 ポート・ダーウィン(オーストラリア北端) 港外で 機雷敷設中の 伊号第124潜水艦が 駆逐艦の爆雷攻撃で 撃沈された
- ▽連合軍は、水深45mから 潜水艦を引き揚げ 艦内から「D暗号書」と使用規定を 回収した

- アメリカは4月中旬、日本の次期作戦目標が「ポート・モレスビー(ニューギニア南端) 攻略」と突き止めた
- ▽作戦開始が「5月3日」 兵力は「空母3隻」

ニミッツは 阻止するため

空母2隻を派遣 珊瑚海海戦(5月7日)に 重要な意味を持つ珊瑚海海戦

まず、日米機動部隊が初めてぶつかった空母対空母の戦い。空母同士は最後まで、相手の姿を見ることなく互いに艦載機を繰り出しての航空戦だった。これからの海戦の姿、同時に如何に早く敵を発見し先制するか。偵察、索敵の重要性を明示するものだったが、ミッドウェーではこの教訓は生かされなかつた。

米側が大型空母レキシントン沈没、ヨークタウン大破。日本側は小型空母祥鳳沈没、大型空母翔鶴中破で、形の上では日本勝利だったが、ポート・モレスビー攻略作戦が中止になり、米豪遮断作戦の挫折につながった。翔鶴は3ヵ月の大修理が必要になり、瑞鶴も艦載機の損害大きかったため、この2隻の主力がミッドウェー作戦に参加出来なくなつた。

- ▽米機動部隊が なぜ 珊瑚海に来ていたのか 日本海軍は 厳密に 検討すべきだった

ミッドウェー攻略に当たる陸戦隊副官が、横須賀郵便局宛てに「六月中旬以降、当隊宛て郵便物はミッドウェーに転送されたし」こんな電報を打って、傍受したアメリカ側は「攪乱の謀略電報ではないか」と、かえって頭を抱えたという。

マーシャル(George C. Marshall)

1880~1959 米陸軍参謀総長。戦後は国務長官となり、欧州復興計画の「マーシャル・プラン」を立案。ノーベル賞受賞

「D暗号」

日本海軍が、昭和15年12月から作戦命令、艦隊通信など、重要電報のほとんどに使っていた暗号。収録語数4万5千語。字句を5ケタの乱数に換え、さらに5万個の乱数を加えた2段階方式の高度な数字暗号で、「絶対に破られない」と、海軍自慢の暗号だった。

アメリカの解読陣は

ハワイの太平洋艦隊戦闘情報班は、16年5月から120人のスタッフを総動員して解読にかかっていたが、「D暗号書」の回収が、解読作業を飛躍的に高めた。解読した言葉は、IBMのカードにパンチされ計算機に投入された。新しい暗号が出てくると、注意深く分類、整理し、重複の手がかりを求めて照合を繰り返した。17年4月には「D暗号」の9割は解読出来たという。

米はヒット・エンド・ラン作戦

少ない空母を有効に使うため、マーシャル諸島(2月1日)、ウエーク島(24日)南鳥島(3月4日)を空襲、攻めてはサツと身を隠し、また、思いがけない所に攻撃をかける戦法をとっていた。

これが山本(鐵艦)に「日本空襲の

- 海軍も「D暗号」の長期使用に、不安を感じていた
 - ▽17年4月1日から 新乱数表に 切り替えを予定
 - ▽作戦に次ぐ作戦で 艦船が 多方面に散らばり 暗号書配布の都合がつかず 5月1日に延期
 - ▽今度は ミッドウェー作戦に備え 艦船が集結 多くの指令 質問 回答が飛び交い 通信量の激増が 再延期を 余儀なくさせた
 - ▽結局 5月26日(機動部隊出撃の前)から 新乱数表に この遅れが ミッドウェー海戦の運命を左右

- ミッドウェー作戦を巡り、軍令部、連合艦隊で激論
 - ▽最後は 永野修身(艦隊長)の裁断で 承認された
 - ▽軍令部は 4月15日 第二段作戦を決定
 - ・6月7日 ミッドウェー攻略
 - ・7月18日 フィジー攻略 21日 サモア攻略
 - 進撃方向が 東と南に90度も違う 二つの作戦の 並行実施となった
 - ▽本土空襲のショックで 軍令部も 太平洋の哨戒線前進に 積極的になり アリュेशन攻略作戦の同時実施 アッツ キスカ島占領が 付け加えられた
 - ▽「ミッドウェーに兵力を出す余裕なんてない」と 言っていた陸軍も 空襲翌日の4月19日 陸軍兵力派遣を 海軍側に 申し入れてきた

- ミッドウェー作戦は、目的、意識に微妙なズレ
 - ▽山本の狙いは「空母を誘い出し撃滅」 ところが 軍令部 陸軍にとっては 「ミッドウェーとアリュेशनを結ぶ 東方哨戒線の前進であり、そのための占領」
 - ▽二つの異なった目的「空母撃滅」と「占領」 南雲忠一中将(機動部隊指揮官)の決断に 大きな影響 陸軍部隊を伴う以上 無事上陸させ 確保が…

- 大本営は5月5日、山本にミッドウェー攻略を命令
 - 大海令第18号(大本営海軍部命令)
 - 一、連合艦隊司令長官ハ陸軍ト協力シ「AF」「AO」西部要地ヲ攻略スベシ 二、細項ニ関シテハ軍令部総長ヲシテ指示セシム

前触れではないか」と、ミッドウェー作戦を決意させる一因になる。

…… 第二段作戦をどうするか ……

陸海軍の間に対立があった。陸軍は南方資源地帯の守りを固め長期不敗態勢を築くべきだ、と主張した。

海軍は、戦争の主導権を握り敵に反攻の機会を与えないためにも攻撃続行の主張だったが、その海軍も、軍令部と連合艦隊では意見が分かれていた。軍令部はフィジー、サモアを攻略し、米豪海上交通線遮断の考え。これ対し連合艦隊はミッドウェー作戦で、山本の意志が反映されていた。

山本は、巨大な国力の米を相手に長期不敗態勢など固められるものでない。ミッドウェーを攻撃すれば、必ず機動部隊が出てくる。それを叩けば、そこに戦争を早期に切り上げる機会が生まれる、と考えていた。

永野 修身(ながの・おさむ)

明治13(1880)～昭和22(1947)高知県生まれ。海軍大将・元帥。昭和11年広田内閣海相。12年連合艦隊長官。16年軍令部総長となり、海軍開戦論の先頭に立つ。A級戦犯で起訴され、裁判中に病死

…… ミッドウェーの戦略的価値 ……

名前が示す通り、太平洋のほぼ真ん中にある2つの珊瑚礁からなる小島。海軍の作戦基地としては多くの制約を抱えていた。泊地が狭く、港湾施設も貧弱で、大艦隊の基地にならない。飲料水はじめ島で生産出来るものがなく他からの補給に頼らなければならない。一番近い日本の海軍基地・トラック島からも3,700*。航空兵力を進めても、ハワイまで1,850*。もあり一式陸攻でも作戦行動圏外。潜水艦、

▽たちまち 戦闘情報班(ハワイ)に キャッチされた問題は「AF」「AO」が どのなのか
 ▽「AF」が ミッドウェーと分かると
 ニミッツの行動は 迅速だった
 東京空襲の 第16機動部隊(ハルゼー中将)
 珊瑚海海戦参加の 第17機動部隊(フレッチャー中将)に
 「直ちに帰投せよ」と 命じた
 ▽ヨークタウンから「飛行甲板が爆破され、
 修理に3ヵ月必要」報告が入ると
 海軍工廠に 部品を用意させ
 3日間で発艦出来るよう 応急修理の態勢
 ▽日時暗号は 片仮名47文字の組合せ
 攻撃時期を 6月3日～5日と 割り出した
 ▽「D暗号」の乱数表を 切り替えた時には
 艦隊編成 翔鶴 瑞鶴の不参加
 指揮官の名前から 航路まで 掴んでいた

●米機動部隊は、真珠湾から素早く出撃した
 ▽5月28日 エンタープライズ ホーネットが出航
 スプルーアンス少将(第16機動部隊指揮官 ハルゼー大佐)は
 「日本艦隊に感付かれることなく、
 ミッドウェー北東海面で待ち伏せしたい」
 ニミッツに申し出て 許可を得ていた
 ▽ヨークタウン(27日帰)も 30日夜 修理を終え出航
 ▽3空母は 6月3日「ポイント・ラック」
 ミッドウェー北東650キロで合流 待ち伏せ態勢に
 進攻して来る 日本艦隊の脇腹に当たり
 日本側の偵察の 最も届きにくい場所だった

●万全の準備を整え、細心慎重に作戦を進めていたら、
 敗れることはなかったろう
 ▽南雲機動部隊は インド洋作戦を終えて帰港
 航程9万2千キロを突破 艦も人も 疲れていた
 ただ 挙げた戦果は 大きかったし
 アメリカを 甘く見るようになっていた
 ▽翔鶴 瑞鶴と 艦載機150機の不参加は
 航空兵力の 3分の1減だが
 黒島亀人大佐(連合艦隊参謀)は
 「味方機動部隊の力を信じていたので、
 作戦の変更や特別の処置は考えなかった」

飛行艇基地として使える程度。

南雲 忠一(なぐも・ちゅういち)

明治20(1887)～昭和19(1944)山形県生まれ。海軍中将。水雷戦隊司令官などを経て昭和16年4月第1航空艦隊長官となり、真珠湾攻撃を指揮。19年中部太平洋艦隊長官。サイパン島で戦死、大将進級

「AF」はこうして突き止めた

ロシュフォート中佐(戦闘情報班班長)は、傍受電報に「AF」が頻繁に現われることに気付いていた。3月4日、二式大艇2機がハワイを空襲した時も、途中で「ワレAFノ付近ヲ通過セリ」と打電していた。「AFはミッドウェーではないか」

決定的証拠を掴むため、日本をワナにかけることを思いついた。「ミッドウェーは蒸留装置が故障し飲料水に不足している」5月11日、この嘘情報をミッドウェーの指揮官に平文で打電させるよう、ニミッツに要請した。2日後「AFハ飲料水ニ欠乏シテイル模様」の日本海軍の無電を傍受した。

二式大艇

昭和17年2月制式採用。発動機4基の海軍大型飛行艇で最高時速454キロ、航続距離7,153キロ。

敵情不明のまま海戦に

敵空母発見のため、11隻の潜水艦をハワイ・ミッドウェー間に2列の散開線で配置したが、一番早く到着した潜水艦でも6月2日。すでに米空母が通過した後だった。

5月30日の真珠湾偵察も中止になった。二式大艇がフレンチ・フリゲート環礁で潜水艦から燃料補給を受け偵察の予定だったが、潜水艦が着くと、

▽5月25日 大和(連艦隊)で 最終打ち合せ
宇垣纏少将(連艦隊)が 南雲に
「ミッドウェーを空襲している時、敵の
基地空軍が襲ってきたら、その時の対策は？」

▽南雲は 作戦は 源田実中佐(航空隊)任せ
源田が「わが戦闘機の力を以てすれば
鎧袖一触である」山本は 厳しく 注意した
「鎧袖一触なんて言葉は不用心極まる。実際に不
意に横槍を突っ込まれた場合にはどうするか、
十分に研究しておかねばならぬ」そして
「この作戦はミッドウェーを叩くのが主目的で
はなく、そこを衝かれて、顔を出した敵空母を
潰すのが目的なのだ。いいか、決して本末を誤
らぬように。だから、攻撃機の半分に魚雷をつ
けて待機させるように」

▽山本の真意が どこまで徹底したのか？
作戦目的の二面性に 大きな問題があった

●艦隊編成にも、問題があった

▽第1機動部隊 空母4隻(隼 龍 隼 龍) 飛行機263機
支援隊 警戒隊 戦艦2隻(龍 龍) 総勢21隻
▽ミッドウェー攻略部隊
戦艦2隻に守られ 陸戦隊 陸軍部隊5,800名
▽主力部隊(山本) 大和など戦艦7隻 総勢30隻以上
▽「全般作戦を支援する」と言うのだが

高速空母部隊が 雌雄を決する 近代海戦に
低速戦艦部隊が 550*も後方を
のこのこ ついていって 何が出来るのか？

▽大和の18吋主砲も 最大射程距離41*。
空母部隊が襲われても 全く 役に立たない
▽パイロットたちは「柱島艦隊(広島湾柱島泊地の戦艦部隊)が
太平洋で観艦式でもやる積もりなんだろう」

●山本の「情」が、重大な作戦ミスを招く

▽5月27日 機動部隊が 赤城(艦)を先頭に出撃
29日には 主力部隊と攻略部隊が 柱島を出た
▽厳重な無線封止 連合艦隊司令部が
洋上に出たため 自ら 口を封じる結果に
▽6月2日夜 第6艦隊司令部(マニラ)は
ミッドウェー北北東310*の 通信をキャッチ

米艦がいて航空哨戒もしている。31
日になっても米艦が動かないため中
止されたが、米側は3月の二式大艇の
ハワイ空襲の時、ここで燃料補給を
受けたことを掴んでいたのだ。

黒島 亀人(くろしま・かみと)

明治26(1893)～昭和40(1965)広島県生
まれ。海軍少将。昭和14年連合艦隊先任
参謀となり、山本長官に重用される。18
年軍令部第2部長(艦隊)

宇垣 纏(うがき・まとめ)

明治23(1890)～昭和20(1945)岡山県生
まれ。海軍中将。昭和16年連合艦隊参謀
長となり20年第5航空艦隊長官。沖縄戦
の特攻を指揮し、終戦当日、自ら特攻出
撃して戦死。遺稿に「戦藻録」

源田 実(げんだ・みのる)

明治37(1904)～平成1(1989) 広島県生
まれ。海軍大佐。英国駐在を経て昭和16
年第1航空艦隊参謀となり、ハワイ作戦
を立案。20年第343航空隊司令。戦後、航
空自衛隊幕僚長。37年参院議員(艦隊)

……「顔見せ大興行」……

大和出撃に、連合艦隊内部でも異論
が出た時、山本は「国民は長官がいつ
も、先頭に立っていると思っている。
柱島などに、どうしておれるか」

「指揮官先頭」は、日本海海戦以来の
海軍の伝統だが、それ以上に、開戦以
来活躍しているのは機動部隊だけ。
柱島の戦艦部隊にも勝利に参加の喜
び、勲章のチャンスをやって、士気を
鼓舞したいの思いがあったのでは…

山本は3月、論功行賞(勲章)で勲1等
旭日大綬章、功2級金鵄勲章を受けて
いる。支那事変の功績といっても、次
官時代に米砲艦パネー号の誤爆事件

▽米空母と 哨戒機の交信と思われ
特別作戦電報で 大本营に報告
ミッドウェー作戦の全部隊にも 打電した
▽山本は「赤城にも念のため知らせてはどうか」
参謀は「赤城も当然傍受しているだろうし、
無線封止を破ってまで、知らせる必要はない」
▽マストの低い赤城は 聞き逃していた
▽大和が 柱島にいたら すぐ 打電したろうし
南雲も知っていたら 対応が 違っていたらう

●4日午前4時半(ミッドウェー朝)、第1次攻撃隊108機が4空母
から発艦した

▽「一段索敵」のミスを犯し 索敵機も7機
▽索敵機発進が 攻撃隊より 5分遅れた上
巡洋艦利根の偵察機が カタパルト故障から
5時10分発進 35分も 遅れてしまった
結果的には この利根機が 敵空母を発見する

▽攻撃隊長は 淵田美津雄中佐が 急性盲腸炎
急速 友永丈市大尉(艦橋副長)に 代わっていた
▽淵田は 利根機の遅れを見て

「病み上がりのせい、弱点ばかりが目につき、
考えが悲観的に傾いて仕方なかった」

●午前5時32分、日本艦隊は米飛行艇に発見された

▽索敵機を出した時間は 日米 ほとんど同時だが
20数機と 3倍以上も出した米側が 先に発見
▽6時 ミッドウェー基地から 戦闘機26機に続き
100機近い爆撃・雷撃機が 日本艦隊に向かった
▽第1次攻撃隊は 6時半 第1弾投下

空中戦は一方的で 米戦闘機隊を壊滅させたが
対空砲火は 激しく 狙いも 正確だった

▽8機が撃墜され 母艦に帰っても 使用不能26機
友永機も 左翼燃料タンクを 撃ち抜かれ
友永は 7時「第二次攻撃ノ要アリ」と打電

●勝利を敗戦に変えた、二度の「兵装転換」

▽米軍機の 日本空母攻撃は 7時7分に始まった
1発の命中弾もなく 次々と 撃ち落とされた
▽ここに 心のスキが 生まれた

米機は みんな陸上機 索敵機の報告もない

を解決したくらいのものであったから
「こんなもの貰っていいのかね」とテ
レ笑いしていたという。金鵄勲章は1
級1,500円、2級1,000円など一時金が
つく。ミッドウェーで勝利すれば、形
だけ参加しても勲章が確実になる。
これが、人一倍情の濃かった山本の
気持ちだったのではないだろうか。

赤城は電波を出してしまった

6月3日、ミッドウェー北方で進路を
変え南下したが、物凄い濃霧。手旗信
号、探照灯の信号もきかず、南雲は後
続艦に「微力電波で変針電信を打て」
と命じたが、米機動部隊に位置、速力
まで教える結果になった。

「二段索敵」

普通なら敵早期発見のため、夜明け
前に1回目の索敵機を出し、1時間後、
2回目の索敵機が、同じ海面を見落と
しのないように飛ぶ。「敵空母はいな
い」の油断もあったし、偵察より攻撃
重視、索敵機の数を出し惜しみした。
2空母不参加の影響が、こんな所に。

淵田 美津雄(ふじた・みつお)

明治35(1902)～昭和51(1976)奈良県生
まれ。海軍大佐。昭和16年赤城飛行隊長
となり、真珠湾攻撃隊総隊長。19年連合
艦隊航空首席参謀。戦後、26年に洗礼を
受け全米47州を伝道して回る。著に「真
珠湾作戦の真相」「ミッドウェー」

源田中佐、戦後の「敗戦の弁」

「つい、偵察機さえ出しておけば、敵
は見つかるという気になってしまっ
た。自分の成功続きに、私なんかも凶
に乗っていた」

▽「敵空母はいないだろう」先入観が

「近くに敵空母はいない」の判断に変わった

▽4空母には 敵空母に備え 108機が待機

魚雷では 陸上基地は 攻撃出来ない

▽南雲は 7時15分 ミッドウェー再攻撃を決意

陸用爆弾に 攻撃装備の変更を 命じた

▽そこへ 7時28分 利根機から

「敵ラシキモノ十隻見ユ」北東444°の地点

▽司令部は 騒然となり 南雲は 決断に迷った

「艦種知ラセヨ」貴重な時間が 失われていった

▽7時45分 魚雷 艦船用爆弾に 再度 兵装転換命令

▽整備員が 外したりついたり 大騒ぎの所へ

第1次攻撃隊が 帰ってきて

上空を旋回しながら 収容を待っている

▽8時20分 利根機は「空母ラシキモノ一隻ヲ伴フ」

▽戦闘機は 全部 防空戦闘に飛び上がっていて

攻撃隊につけてやるには 一度 着艦させ

燃料補給をしなければ ならなかった

▽戦闘機に守られない攻撃隊が 如何に脆いかは

現に 眼前で 米軍機を叩き落として 見ている

▽結局 南雲は 源田(鯨鯨)の進言を容れ

第1次攻撃隊を まず収容し 兵力を整えた上で

十分な戦闘機をつけ 一挙 敵空母撃滅の方針に

▽8時55分「収容オワラバー一旦北二向ヒ

敵機動部隊ヲ捕捉殲滅セヨ」と 命令した

●航空決戦では、先制攻撃が鉄則だった

▽「兵は拙速を尚ぶ」

なぜ すぐ 攻撃隊を出さなかったのか

▽4隻の空母は 混乱を 極めていた

降りて来る攻撃機を 迎え入れるには

甲板に出していた攻撃機を

エレベーターに乗せ 格納庫(瞰下)に入れねば

▽甲板 格納庫 至る所に

魚雷 爆弾が ゴロゴロ 転がっていた

▽敵艦載機の来襲を 考えれば

まず 防空戦闘には不要の 攻撃機を出して

空母を 身軽にしておくべきだった

▽南雲の「少々遅れても完璧を期す」が

ミッドウェー海戦の 運命を決めることに

司令部はジレンマに襲われた

攻撃機を甲板に並べておけば第1次攻撃隊は着艦出来ず、燃料切れで不時着水も出てくる。そうかと言って、収容してからでは敵空母攻撃隊の発進が遅れてしまう。山口多聞少将(鯨鯨)は、飛竜から「現装備ノママ攻撃隊直チニ発進セシムルヲ至当ト認ム」源田は「凶上演習や兵棋演習ならば、文句なしに第2次攻撃隊を優先させたであろう。しかし、実戦では机の上の駒を動かすのと訳が違う。血の通った戦友を動かしているのである。長い間、苦楽を共にしてきた戦友に「燃料がなくなったら、不時着水して、駆逐艦に助けて貰え」という気持ちには、どうしてもなれなかった」

山口 多聞(やまぐち・たもん)

明治25(1892)～昭和17(1942)東京生まれ。海軍少将。戦艦伊勢艦長、第1連合航空隊司令官。昭和15年第2航空戦隊司令官となりミッドウェー海戦で空母飛竜と運命を共にした。死後、中将に進級

草鹿竜之介(鯨鯨)、戦後の反省

「結果論のようではあるが、私は戦闘機なしでも出すべきであったと思う。陸用爆弾では兵装としては十分でないが、甲板へ一つ命中させても、八百°爆弾ならば母艦の発着甲板を使用不能にするくらいの効果は十分ある」
(昭和24年「運命の海戦」)

草鹿 竜之介(くさか・りゅうのすけ)

明治25(1892)～昭和46(1971)東京生まれ。海軍中将。空母赤城艦長、第4連合航空隊司令官を経て昭和16年4月第1航空艦隊参謀長。19年連合艦隊参謀長。20年軍令部次長、第5航空艦隊長官

●第1次攻撃隊収容は、午前9時過ぎに終わったが…

▽9時18分 米雷撃機編隊(18機)が 水平線に

▽日本の戦闘機隊は 優秀だった

第1波を全機撃墜 空母も

巧みな操艦で 掠り傷一つ 負っていない

▽各空母では「攻撃隊発艦準備急げ」の 督促命令

第2波 第3波の雷撃機も 撃退した

●「勝利の女神」は、日本艦隊に微笑むかに見えた

▽低空で来襲する 雷撃機を 追い回しているうち

上空警戒機が 全部 低空に集まってしまい

見張員の注意も 低空ばかりに 向けられる

▽10時24分 赤城から ゼロ戦が発艦した瞬間

「敵急降下！」見張員の甲高い声

頭上から 急降下爆撃機24機が 降るように

▽1発目は 辛くも かわしたが

2発目は 赤城甲板を貫き 格納庫で爆発した

あと5分あれば 全機 発進出来た

▽赤城に3発 加賀 蒼竜に4発命中

甲板には 魚雷 爆弾を抱えた飛行機が

燃料を満載して 並んでいる

次々と誘爆し 1発が 何百発もの命中弾に

▽どの空母も 被爆した瞬間 動力を失い

消火ポンプが動かずに たちまち 紅蓮の炎に

▽加賀 蒼竜は 火薬庫に誘爆 大爆発を起こし沈没

赤城も 炎上しながら 浮かんでいる存在に

南雲は 旗艦を 長良(巡洋艦)に移した

●ただ1隻無傷の飛竜は、山口の闘志そのままに反撃へ

▽11時58分 艦上爆撃機18機 戦闘機6機が発進

ヨークタウンに 3発命中させ 大火災

▽偵察機から「敵空母一隻発見」の報告に

手持ちの全機(もう16機)を 投入した

隊長の友永機は

第1次攻撃で左翼燃料タンクをやられていたが修理の暇がない。自分が行かなければ1機減ってしまう。整備員に「右のタンクを一杯にしてくれ」と片道覚悟の出撃だったが、半分火に包まれながら空母艦橋に突っ込んでいった。

…… スプルーアンスの決断は ……

空母の全機発艦には1時間近くかかる。最初は、航続力のある飛行機から発艦させて上空で待機させ、「全兵力一体の攻撃」を考えていた。ところが利根機に発見されて午7時半、上空にある飛行機から「逐次攻撃に向かえ」と命じた。これが凶らずも、切れ目のない波状攻撃を生むことになった。

南雲が利根機の第一報を受けた7時28分、攻撃を決意していたら、日米ほとんど同じ時間だから状況は決定的に変わっていたろう。

赤城の惨状

後藤仁一大尉(艦上爆撃隊)は「大火災は、三十秒近い赤城の幅いっぱい、明るい真昼の空に濃いピンク色で高く立ち上がっていました。「あり得ないことが起こった」と、小生は自分でも気付かぬうちに譫言めいて呟いていました。周囲にいた先輩を見ると、どの顔も一種異様な笑いを浮かべていました。ヘラヘラと、苦笑しているのです。人間が真に虚脱状態に陥った際に起こす生理的な反応でしょうか、白昼夢を見ているようでした」

幸運は、最後までアメリカ側に

急降下爆撃隊は、途中で一緒に出た雷撃機隊とはぐれて、3時間近く飛んでも日本艦隊を発見出来ない。

燃料も尽きかけ、マックラスキー少佐は「あと5分飛んで見つからなければ引き返そう」と思っていた9時55分駆逐艦の白い航跡を見つけた。「この先に空母がいるかも知れない」

航跡を追っているうちに、双眼鏡が赤城の姿を捉えた。

▽魚雷2本を命中させ 日本側は

「空母2隻をやっつけた」と 思っていたが

同じヨークタウンで 2時間足らずの間に

消火に成功していて 別の空母と思ったのだ

▽午後5時12分 山口が わずかに残った6機で

薄暮攻撃を かけようとしている時

飛竜は 4発の命中弾を受け 炎上し出した

▽赤城 飛竜は 味方駆逐艦の魚雷で 沈められた

●連合艦隊司令部は5日午前2時55分、「ミッドウェー作戦中止」を全軍に打電した

▽日本の損害は 空母4隻 巡洋艦三隈沈没

飛行機喪失287機 戦死3,057名

▽空母激滅 熟練パイロット121名を失ったことは

制空権 制海権の維持を 難しくさせ

作戦の主導権を 米側に 譲り渡すことに

▽大本营は 6月10日「軍艦行進曲」の鳴り物入りで

それも アリュेशन攻略から 発表した

▽読売新聞は 1面全段ぶちぬきの 横トッパンで

「米の対日北方攻撃地点破摧

長駆進攻・アリュेशन列島に上陸」

▽ミッドウェーの戦果は「空母2隻撃沈、撃墜120機」

損害は「空母1隻喪失、1隻大破、巡洋艦1隻大破

未帰還機35機」「嘘の大本营発表」の始まり

●海軍は、この敗北を徹底して隠そうとした

▽作戦参加者全員が「軟禁」扱い

▽沈没艦の乗組員は 海兵団ごとに集めて

外地に運ばれ パイロットも 一纏めにし

鹿屋基地(甕島)に 送られた

▽約600名の負傷者は 海軍病院に 分散収容された

外部との連絡が 完全に 遮断され

両足骨折の淵田中佐は

「時として捕虜収容所ではないかという錯覚に

陥るほど、治療に名を借りた軟禁であった」

▽生存者は 固く 口止めされ

通信は 検閲出来るように 絵はがきだけ

封書は 一切 厳禁だった

▽種村中佐は「大本营機密日誌」(6月11日)に

「知らせぬは当局者、知らぬは国民のみだ」

山口の最期

飛竜は深夜になって大爆発、艦が30

度くらいに傾くと艦長加来止男大佐

は、800人近い生存者を飛行甲板に集

め、「総員退艦」を命じた。山口にも退

艦を勧めたが、笑って首肯だけ。幹

部や参謀が「自分たちも」と残留を申

し出ると、山口は「その気持は嬉しい

が、戦いはまさにこれからだ。君らは

生き残って、強い海軍を作ってくれ」

伊藤清六中佐(鏑)に「これでも家族

に届けて貰うか」と、黒の戦闘帽を手

渡した。伊藤の耳には、艦橋を昇りな

がら加来に「一緒に月でも眺めるか」

と言う山口の声が聞こえたという。

大本营発表(6月10日午後3時30分)

東太平洋方面作戦中の帝国海軍部

隊は六月四日アリュेशन列島の

敵拠点ダッチハーバー並に同列島一

帯を急襲し、四日、五日両日に亘り反

復之を攻撃せり、一方同五日洋心の

敵根拠地ミッドウェーに対し猛烈な

強襲を敢行すると共に、同方面に

増援中の米国艦隊を捕捉猛攻を加へ

敵海上航空力並に重要軍事施設に甚

大なる損害を与へたり、更に同七日

以後陸軍部隊と緊密なる協同の下に

アリュेशन列島の諸要点を攻略し目

下尚作戦続行中なり、現在迄に判

明せる戦果左の如し

一、ミッドウェー方面

(イ)米航空母艦エンタープライズ型

1隻及ホーネット型1隻撃沈(ロ)彼我

上空に於て撃墜せる飛行機約120機

(ハ)重要軍事施設爆破

二、ダッチハーバー方面

(イ)撃墜破せる飛行機14機(ロ)大型

輸送船1隻撃沈(ハ)重油槽2カ所、大

型格納庫1棟爆破炎上

三、本作戦に於ける我が方損害

● 連合艦隊は、作戦終了後、いつもは必ずやっている作戦研究会を開かなかった

▽ 黒島大佐(舩録)は

「突っけば穴だらけであるし、みな十分反省していることでもあり、今更突っついて屍に鞭打つ必要がないと考えたからだ」

▽ 米軍と比べて 事前の準備 偵察 状況判断

指揮官の決断 どれをとっても 段違いだった

▽ 組織としての欠陥が どこに あったのか

敗戦の時こそ 敗因を しっかり突き止め

次の作戦に 生かすべきだった

(イ) 航空母艦1隻喪失、同1隻大破、巡洋艦1隻大破(ロ) 未帰還飛行機35機

草鹿参謀長の言葉

「今から考えると、ミッドウェー作戦には無理があった。人も艦も疲れておった。自分の心にも奢りがあった。そして大体、戦争全体に無理があった」

原、島大慶(同)、大慶堂(同)製菓(下)

製菓(上)製菓(中)製菓(下)

製菓の製菓(上)

中一エリセミ、さるえきみん
球流き讀び人、エと依製菓(上)製
と依依と讀び心の依前、エと依
依製菓(上)製菓(中)製菓(下)
[エと依]

原、島大慶(同)、大慶堂(同)製菓(下)

製菓(上)製菓(中)製菓(下)

36 製菓(上)製菓(中)製菓(下)

中一エリセミ、さるえきみん

球流き讀び人、エと依製菓(上)製

と依依と讀び心の依前、エと依

依製菓(上)製菓(中)製菓(下)

[エと依]

製菓(上)製菓(中)製菓(下)







と依依と讀び心の依前、エと依

依製菓(上)製菓(中)製菓(下)

「東京初空襲とミッドウェー海戦」 関係年表

昭和6	1931	9. 18 柳条湖で満鉄爆破。満州事変始まる	昭和17	1942	5. 30 ヨークタウン、応急修理を終え出航		
12	1937	7. 7 盧溝橋事件勃発。支那事変始まる			5. 31 特殊潜航艇3隻がシドニー港攻撃		
14	1939	5. 11 ノモンハン事件始まる			6. 2 日本潜水艦、米空母警戒の配置に◆マ ーシャル諸島の第6艦隊、ミッドウェ ー近海で行動の米空母通信キャッチ		
		8. 30 連合艦隊司令長官に山本五十六			6. 5 ミッドウェー海戦。赤城、加賀、飛龍、 蒼龍の4空母と重巡三隈沈没		
15	1940	9. 1 第2次世界大戦始まる					
		7. 24 海軍、零式戦闘機(ゼロ戦)制式採用					
		9. 25 米、日本の外交暗号を解説					
		9. 27 日独伊三国同盟、ベルリンで調印					
16	1941	4. 13 日ソ中立条約、モスクワで調印					
		6. 22 独軍、ソ連に侵攻。独ソ戦始まる					
		7. 28 日本軍、南部仏印に進駐開始					
		8. 1 米、対日石油輸出を全面禁止					
		8. 25 新鋭高速空母翔鶴竣工(9. 25瑞鶴)					
		10. 18 東条英機内閣発足					
		11. 5 御前会議、「帝国国策要領」決定(12月 1日まで交渉、成功しなければ開戦)					
		11. 26 ワシントンで「ハル・ノート」手交					
		12. 1 御前会議、「対米英蘭開戦」を決定					
		12. 6 モスクワ目前、独軍の敗走始まる					
		12. 8 太平洋戦争始まる◆真珠湾攻撃、コタ バル上陸作戦◆ヒットラー、後退命令					
		12. 10 マレー沖海戦で英戦艦2隻撃沈					
		12. 12 閣議、「大東亜戦争」の呼称決定					
		12. 16 戦艦大和(65,000ト)竣工					
		12. 25 香港占領					
17	1942	1. 2 マニラ占領					
		1. 11 海軍落下傘部隊、メナド(セレベス島)占領					
		1. 12 戦果の発表を「大本営発表」に一本化					
		1. 20 伊号第124潜水艦、豪沖合で撃沈され 米軍は日本海軍の「D暗号書」回収					
		2. 1 米空母、マーシャル諸島攻撃					
		2. 14 陸軍落下傘部隊、パレンバンに降下					
		2. 15 シンガポール占領					
		2. 24 米空母、ウェーク島攻撃					
		3. 4 二式大艇2機、オアフ島(ハワイ)を空襲◆ 米空母、南鳥島を攻撃					
		3. 7 大本営政府連絡会議、「今後採ルヘキ 戦争指導ノ大綱」決定					
		4. 4 「翼賛選挙」の第21回総選挙公示					
		4. 15 軍令部、ミッドウェー作戦など決定					
		4. 18 ドゥリットル爆撃隊、東京、名古屋な ど空襲(中国に不時着の8人捕虜に)◆ 東部軍司令部、「敵機9機撃墜」と発表					
		4. 25 靖国神社大祭で「撃墜B25」公開展示					
		4. 30 「翼賛選挙」投票。非推薦の85人当選					
		5. 5 連合艦隊にミッドウェー攻略を命令					
		5. 7 珊瑚海海戦。空母祥鳳、レキシントン 沈没、翔鶴、ヨークタウン大破					
		5. 20 連絡会議、油槽船増強応急措置決定					
		5. 27 機動部隊柱島出航、ミッドウェーへ					
		5. 28 米第16機動部隊、真珠湾を出航					
		5. 29 山本長官座乗の大和など出航					
			昭和17	1942	4日 4:30 ミッドウェー空襲の第1次攻撃隊108機発進 4:35 索敵機6機発進。利根偵察機は5:10と遅れる 5:32 米飛行艇、日本の機動部隊発見 6:00 ミッドウェー基地の戦闘機26機発進。続い て約100機の爆撃・雷撃機全機発進 6:30 第1次攻撃隊、ミッドウェーに第一弾投下 7:00 友永丈市攻撃隊長、「第2次攻撃ノ要アリ」 7:07 米基地航空部隊の日本空母攻撃始まる 7:15 機動部隊指揮官南雲忠一、敵空母に備え待 機中の108機に陸上攻撃の「兵装転換」命令 7:28 利根偵察機から「敵ラシキモノ10隻見ユ」 7:30 エンタープライズ、ホーネット艦載機発進 7:45 南雲、再度艦船攻撃用に「兵装転換」命令 7:50 第1次攻撃隊帰投し出し上空を旋回 8:20 利根機「敵空母ラシキモノ1隻ヲ伴フ」◆山口 多聞(第2航空隊)司令官、「現装備ノママ攻撃隊 直チニ発進セシムルヲ至当ト認ム」 8:30 ヨークタウンの艦載機発進 8:55 各艦に第1次攻撃隊の収容と「収容オワラバ 一旦北二向ヒ敵機動部隊捕捉ヲ滅」を指令 9:00過ぎ 帰投した第1次攻撃隊の収容完了 9:18 米雷撃機18機、水平線に姿を見せ攻撃開始 9:55 米急降下爆撃隊、日本駆逐艦の航跡発見 10:24 ゼロ戦が赤城から発艦した瞬間、米24機の 急降下爆撃。赤城3発、加賀、蒼龍に4発命中 11:58 飛龍から米空母攻撃の1次攻撃隊24機発進 12:45 飛龍攻撃隊、ヨークタウンを炎上させる 13:30 2次攻撃隊16機発進、ヨークタウンを攻撃 17:12 飛龍4発の命中弾を受け炎上 5日 2:55 連合艦隊司令部、「ミッドウェー作戦中止」 3:15 飛龍乗員、山口、加来止男艦長を残し退艦 5:10 飛龍、駆逐艦巻雲の魚雷で沈没 6日 17:00 赤城、駆逐艦4隻の魚雷で沈没		
			昭和17	1942	6. 7 アッツ、キスカ島に上陸(8日頃) 6. 10 大本営、ミッドウェーの戦果発表「米 空母撃沈2、日本空母喪失・大破各1」 7. 28 陸軍、「空襲軍律」「同実施規定」制定 8. 7 米軍、ガダルカナル上陸。反攻始まる 8. 28 13軍軍律会議、米捕虜8人に死刑判決 10. 3 東条首相、米捕虜の減刑を内奏 10. 15 米捕虜3人の死刑執行。5人は無期に 昭和18	1943	2. 9 大本営、「ガダルカナル転進」と発表 11. 15 海上護衛総司令部を設置

日本帝国の拡大と崩壊

-  1868 (明治元) 年および
-  1945 (昭和20) 年以降の日本領土
-  1910 (明治43) 年の日本帝国領土
-  オランダ領植民地
-  フランス領植民地
-  イギリス領植民地

第二次大戦時の日本による支配の最大領域

